

小・中「新編 新しい国語」 学習目標・「言葉の力」 関連表

話す・聞く

小学校：●の項目は、小学校「新編 新しい国語」の各学習材の目標。【 】の項目は、各学習材の「言葉の力」。

中学校：●の項目は、中学校「新編 新しい国語」の各学習材の目標。【 】の項目は、各学習材の「言葉の力」。

	小学校 1・2 年	3・4 年	5・6 年	中学校 1 年	2 年	3 年
話題設定や取材 話題設定・取材	<ul style="list-style-type: none"> ●見つけたものをみんなの前で話したり、友達の話に興味を持って聞いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●知りたいことについて調べ、発表することを整理する。 		話し合いで理解を深めよう グループディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ●お互いの体験や考えを出し合って整理する。 	話し合いで問題を検討しよう リンクマップによる話し合い <ul style="list-style-type: none"> ●さまざまなメディアを使って討論のテーマを決め、メリットとデメリットを出し合う。 【テーマを決め、メリットとデメリットを出し合う】 <ul style="list-style-type: none"> ●さまざまなメディアを使って話題を見つける。 ●見つけた話題をもとに、多様な見方ができるか、参考にできる事例を探せるかなどに注意して、討論のテーマを決める。 ●実施した場合に生じると考えられるメリットとデメリットをなるべく多く出し合う。メディアの情報を参考にしてもよい。 	場面に応じて話そう 条件スピーチ <ul style="list-style-type: none"> ●体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考える。 【目的や相手、時間を意識する】 <ul style="list-style-type: none"> ●目的や聞き手の関心に合わせて、話す内容を決める。
話すこと 構成・述べ方 ●順序立てて話す	<ul style="list-style-type: none"> ●夏休みの思い出をみんなの前で話したり、友達の話に興味を持って聞いたりすることができる。 ●だいたいなことを順序よく説明する。 【説明する】 <ul style="list-style-type: none"> ●だいたいなことを順序よく話す。 <ul style="list-style-type: none"> ●聞く人に分かりやすい順序で説明する。 【話して説明する】 <ul style="list-style-type: none"> ●事柄ごとに話す。 ●何について話すかを言ってから、説明する。 ●様子が分かるように、形や大きさ、場所、向きなどを話す。 ●順序を表す言葉を使う。 <ul style="list-style-type: none"> ●聞く人が分かりやすいように、順序よく工夫して説明する。 【分かりやすく説明する】 <ul style="list-style-type: none"> ●話のまとめごとに分けて、順序よく話す。 ●聞く人に分かりやすい説明の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を工夫する。 ・物を見せながら話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事柄を選び、筋道を立てて話す。 【筋道を立てて話す】 <ul style="list-style-type: none"> ●伝えたいことに合った事柄を選び、順序立てて話す。 ●伝えたいことがよく分かるように、声の強弱や間の取り方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●推薦するもののよさが伝わるように、構成を工夫して話す。 【推薦する】 <ul style="list-style-type: none"> ●推薦するもののよさが伝わるように、構成や話し方を工夫して話す。 <ul style="list-style-type: none"> ・目的に合わせて、推薦するものの説明や、推薦する理由、具体的なエピソードなどを選んで話す。 ・よさを簡潔に表した言葉を使って、聞き手に印象づける。 	具体例を挙げて伝えよう 「ことわざ」スピーチ <ul style="list-style-type: none"> ●具体例を取り入れ、順序立てて話を組み立てる。 【順序立てて話を組み立てる】 <ul style="list-style-type: none"> ●最初に、何について話すのかを述べる。 ●次に、伝えたいことを項目に分けて述べる。項目の内容をはっきりと示す語句を用いたり（ラベリング）、「まず」「次に」や「三つあります。一つ目は……」のような順序や数を表す表現を用いたり（ナンバリング）してもよい。 ●話の内容が込み入っているときには、最初にこれから述べることの全体の流れ（アウトライン）を示すとよい。 		
構成・述べ方 ●論理的に話す		<ul style="list-style-type: none"> ●調べて分かったことと考えたことを、筋道を立てて報告する。 【分かりやすく報告する】 <ul style="list-style-type: none"> ●分かったことと考えたことのつながりが聞き手に伝わるように、筋道を立てて報告する。 			説得力のある提案をしよう プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ●聞き手の立場や考えを想定して、説得力のある話を組み立てる。 【説得力のある話を組み立てる】 <ul style="list-style-type: none"> ●最初に提案を述べ、続いてその理由を柱立てて示す。 ●提案理由は具体的に述べる。数値を使うことで説得力が増すこともある。 ●聞き手の立場や気持ちになって質問や意見を予想し、答えとなる内容の示し方を工夫する。 ●聞き手が知りたいと思うことは、短所であっても素直に述べる。 	

<p>構成・述べ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ●効果的に話す 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料を使って聞き手に分かりやすく説明する。 【調べたことを発表する】 ●調べたことを事柄ごとに整理して話す。 ●聞き手に分かりやすいように、資料の出し方や見せる時間の取り方を考える。 ●相手が知りたいことを考えて必要な事柄を選び、丁寧に話す。 【案内する】 ●「いつ」「どこで」「何」などの言葉に気をつけて、質問の目的を正しく聞き取る。 ●相手が知りたいことに合った答えを、分かりやすい言葉で丁寧に話す。 ●相手の質問の目的を考えて、答えのほかにも役立つことがあれば加えて話す。 ●資料を使って聞き手に分かりやすく話す。 【分かりやすく報告する】 ●報告したいことを分かりやすく伝えるために、どのような資料が必要かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明する。 【資料を活用して説明する】 ●伝えたい内容や目的に合わせ、形式を工夫して、資料を作成する。 ●説明する内容と資料を関連づけ、見せ方を工夫して話す。 ●意図が伝わるように、資料を効果的に活用して発表する。 【プレゼンテーションをする】 ●意図が伝わるように、適切な事例や資料を挙げ、構成を工夫して話す。 ●聞き手の興味をひきつけるように、話し方や資料の見せ方を工夫する。 ●意図が伝わるように、話の構成や話し方を工夫して話す。 【意図が伝わるように工夫して話す】 ●意図を伝えるのに適した事柄を選んで話す。 	<p>説得力のある提案をしよう</p> <p>プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資料や機器を活用して、分かりやすく印象的に話す。 【資料や機器を活用する】 ●写真や絵で示すと分かりやすく伝わる。 ●数値や複雑な内容は、グラフや表、図にまとめる。 ●文字や図表の大きさ、色遣いなどを見やすいものにする。 ●パソコンやOHPなどの機器を使ったり、資料を提示するタイミングを工夫したりして、印象に残る演出をする。 ●資料のどこに注目すればよいかを、指差しや言葉で伝える。 	<p>場面にに応じて話そう</p> <p>条件スピーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考える。 【目的や相手、時間を意識する】 ●話す時間に応じて、伝える情報量を調節する。時間に余裕があるときには、資料を提示するなどの工夫をすることよい。 ●敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方をする。 【場の状況や相手の様子に応じて話す】 ●話の途中で問いかけをしたり、質問を促したりしながら、聞き手の理解を深める。 ●ジェスチャーを適切に使うと、様子や気持ちがいよよく伝わる。
<p>言葉遣い・音声・話し方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●場面や状況に合わせた言葉遣いで、はっきりと挨拶する。 ●丁寧な言葉遣いで、自己紹介し合う。 ●だいたいなことを順序よく説明する。 【説明する】 ●はっきりした声で、ゆっくり話す。 ●紹介するものがよく伝わるように、話すことを選んで話す。 【話して紹介する】 ●聞く人に伝わるように話すことを選ぶ。 ●聞く人を見て話す。 ●声の大きさや話す速さに気をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料を使って聞き手に分かりやすく説明する。 【調べたことを発表する】 ●だいたいな言葉は、強調して話す。 ●初めて聞く人にもよく分かるように、分かりにくい言葉を説明したり言い換えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●意図が伝わるように、話の構成や話し方を工夫して話す。 【意図が伝わるように工夫して話す】 ●伝えたいことを簡潔に表した言葉を効果的に使い、聞き手に印象づける。 ●話の内容に合わせて、声の大きさや話す速さ、間の取り方、表情、身振りなどに変化をつける。 	<p>具体例を挙げて伝えよう</p> <p>「ことわざ」スピーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●声の大きさや話す速さ、間の取り方などに気をつけて、聞き取りやすく効果的な話し方をする。 【聞き取りやすく効果的な話し方をする】 ●はっきりした発音と聞きやすい声の大きさを、ゆっくりと話す。 ●一文を短くして、接続表現を効果的に使う。 ●同音異義語など聞いて分かりにくい語は多用しないようにする。 ●効果的な、聞き手をひきつける間を取る。 ●聞き手の様子を見て、話が十分に伝わっていないと感じたときは、言葉を換えたり、だいたいなことを繰り返し述べたりする。
<p>相手の反応を踏まえる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●聞く人が分かりやすいように、順序よく工夫して説明する。 【分かりやすく説明する】 ●聞く人の様子を見て、分かったかどうか確かめながら話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料を使って聞き手に分かりやすく話す。 【分かりやすく報告する】 ●聞き手の様子を見て、話が伝わっているか確かめながら話す。 		
	<p>場面にに応じて話そう</p> <p>条件スピーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考える。 【目的や相手、時間を意識する】 ●聞き手の理解を考え、分かりにくい言葉（地名や人名、専門用語など）は、易しい言葉で説明できるようにしておく。 ●敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方をする。 【場の状況や相手の様子に応じて話す】 ●聞き手の表情を見ながら話す。 ●話の内容が十分に伝わっていないと感じられたときには、分かりやすく言い換えたり補足したりする。 			

聞くこと	<p>正確に聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● だいたいなことを落とさないように聞き、ほかの人に伝える。 ● 夏休みの思い出をみんなの前で話したり、友達の話に興味を持って聞いたりすることができる。 ● だいたいなことを落とさずに聞く。 <p>【だいたいなことを落とさずに聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 何のために話を聞くのか、考えながら聞き、だいたいなことを見つける。 ● だいたいなことを、短い言葉でメモに書く。 ● 聞いて分からなかったことは質問する。 ● 友達の話に興味を持って聞く。 <p>【興味を持って聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● どんな話か考えながら、話している人を見て聞く。 ● 感想を伝えたり、質問したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 話のまとまりに気をつけて聞く。 <p>【話のまとまりに気をつけて聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いくつかの事柄を、どんな順序で話しているか、考えながら聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数や順序を表す言葉に気をつける。 ・ メモには、事柄ごとに番号を付けて整理する。 ● 目的に合わせて、だいたいなことを落とさずに聞き取る。 ● 話の組み立てを捉えながら聞く。 ● 聞いたことをよりよく理解するために質問する。 <p>【話の組み立てを意識して聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 順序や理由を表す言葉に注意して、だいたいなこととその理由を落とさずに聞く。 ● 聞いた話を後で振り返るとき、話の内容が分かりやすいように、記号や図、絵などを使ってメモを取る。 ● メモを見て、分からなかったことや聞き逃したことなどは質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 似ているところと違うところを考えながら、意見と理由を正しく聞き取る。 <p>【人の考えを正しく聞き取る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話の目的を理解しておく。 ● 意見と理由の両方に着目して聞く。 ● 複数の意見を比べるときは、理由も併せて似ているところや違うところを考えながら聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手が伝えたいよさを考えながら、スピーチを聞く。 ● 適切な理由を挙げているかを考えながら、意見を聞く。 <p>【意見と理由とのつながりを考えながら聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手が述べている意見と、意見に対して挙げている理由とを正しく聞く取る。 ● 意見に対する理由が適切かを考えながら聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話題がそれていないか。 ・ 意見につながる理由を挙げているか。 ・ 偏った見方になっていないか。 <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手の意図を捉えて、自分の経験や考えと比べながら聞く。 <p>【話し手の意図を聞き取る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話の構成や話し方の工夫に気をつけて、自分の経験と比べながら聞く。 	<p>会話が弾む質問をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話の内容が深まったり広がったりするような、よりよい質問をする。 <p>【メモを取り、質問する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大切と思う言葉、つまりキーワードを中心にメモを取る。キーワードが何かつかめないときは、できるだけ多くメモを取る。 ● 意味が分かりにくいところや確認したいことに加えて、自分が興味を持ったこと、知りたいことについても質問する。 ● 「なぜ」「どんな」「共通点があるか」といった質問を上手に使うと、相手の考えや人柄などをよりよく理解できる。 		
	<p>考えながら聞く・批判的に聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 話し手が伝えたいことは何かを考えながら聞く。 <p>【話し手の伝えたいことを聞き取る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手が伝えたいことは何かを考えながら聞く。 ● 自分だったらどうかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 話し手が伝えたいことは何かを考えながら聞く。 <p>【話し手の伝えたいことを聞き取る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手が伝えたいことは何かを考えながら聞く。 ● 自分だったらどうかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 似ているところと違うところを考えながら、意見と理由を正しく聞き取る。 <p>【人の考えを正しく聞き取る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話の目的を理解しておく。 ● 意見と理由の両方に着目して聞く。 ● 複数の意見を比べるときは、理由も併せて似ているところや違うところを考えながら聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手が伝えたいよさを考えながら、スピーチを聞く。 ● 適切な理由を挙げているかを考えながら、意見を聞く。 <p>【意見と理由とのつながりを考えながら聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手が述べている意見と、意見に対して挙げている理由とを正しく聞く取る。 ● 意見に対する理由が適切かを考えながら聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話題がそれていないか。 ・ 意見につながる理由を挙げているか。 ・ 偏った見方になっていないか。 <ul style="list-style-type: none"> ● 話し手の意図を捉えて、自分の経験や考えと比べながら聞く。 <p>【話し手の意図を聞き取る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話の構成や話し方の工夫に気をつけて、自分の経験と比べながら聞く。 	<p>問題意識を持って聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 表現の仕方や根拠の確かさに注意して聞き、自分の考えを広げる。 <p>【聞き取ったことを吟味する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事実を伝えている表現と、話し手の主観（考え、印象や感想、心情）が表れている表現とを区別する。 ● 考えについては、なぜそう考えるのかという根拠を捉えたうえで、根拠が確かなことか、同意できることかを吟味する。 ● 主観が表れている表現や、考えの根拠について、数値を使うなどして客観的に述べるとうなるかを検討してみる。 	<p>問題意識を持って聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 表現の仕方や根拠の確かさに注意して聞き、自分の考えを広げる。 <p>【聞き取ったことを吟味する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事実を伝えている表現と、話し手の主観（考え、印象や感想、心情）が表れている表現とを区別する。 ● 考えについては、なぜそう考えるのかという根拠を捉えたうえで、根拠が確かなことか、同意できることかを吟味する。 ● 主観が表れている表現や、考えの根拠について、数値を使うなどして客観的に述べるとうなるかを検討してみる。 	<p>評価しながら聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな観点から評価しながら聞き、自分の考えや表現に生かす。 <p>【話をさまざまな観点から評価する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相手意識を持って、話し始めなどの表現を工夫しているか。 ● 構成に工夫があり、主張や結論が明確に伝わるか。 ● 主張の根拠が、説得力のあるもの、共感できるものであるか。 ● 具体例やエピソードが分かりやすくて印象的か。 ● 一文を短くし、理解しやすい言葉を使って話しているか。 ● 抑揚や間の取り方など、話し方の工夫がされているか。

話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達の話をよく聞いて、質問したり答えたりする。 <p>【よく聞いて話す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話をよく聞いて、質問する。 ● 質問をよく聞いて、はっきり答える。 <ul style="list-style-type: none"> ● みんなの考えを聞き合って、考えをまとめる。 <p>【話し合って、考えをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の考えとその訳をはっきり話す。 ● 人の考えを、最後までよく聞いて、分からないことは質問する。 ● よい考えを選んだり、似ている考えを合わせたりしてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の主張とその理由を明確にして、計画に沿って話し合う。 <p>【討論をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の立場について、説得力のある主張をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の立場を明確に示し、聞き手に対して説得力があると思う理由を挙げる。 ・ 調べたことや自分の経験などをもとに、理由を挙げる。具体的な数値や資料があれば示す。 ● 相手の主張と理由について、自分の主張と比べて考えながら聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の意見を明確に伝えて、相手の発言の意図を考えながら話し合う。 <p>【問題を解決するために話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問題の原因を考えてから、それを踏まえて解決する方法を話し合う。 ● 自分の発言の意図を明確に伝え、相手の発言の意図を捉えて話し合う。 ● 相手の意見に対する自分の立場を明確にし、反対するときは、それに代わる意見も述べる。 	話し合いで理解を深めよう グループディスカッション	話し合いで問題を検討しよう リンクマップによる話し合い	話し合いで問題を解決しよう チャート式討論
司会・進行		<ul style="list-style-type: none"> ● 話し合いの進め方を考え、司会の進行に沿って話し合う。 <p>【司会の進行に沿って話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話し合いを始める前に、話し合うことと進め方を確かめる。 ● 司会は、話し合いの区切りごとに、次のことを整理して伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ それまでに出た意見 ・ 決まったこと ・ 次に話し合うこと ● 参加する人は、司会の進行に沿って発言する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の役割を考えて、よりよい話し合いをする。 <p>【自分の役割を考えて、よりよい話し合いをする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 司会をするときは、話し合いの進め方に沿って進行する。 ● 司会をするときは、出てきた意見を整理したり、話し合いが議題から外れないように注意したりする。 ● 議題を提案するときは、全員によく分かるように提案した理由を説明する。 ● 発言するときは、ほかの人の発言をよく聞いて、議題に沿って考え、自分の意見を積極的に話す。 	話し合いで理解を深めよう グループディスカッション	話し合いで問題を検討しよう リンクマップによる話し合い	話し合いで問題を解決しよう チャート式討論

小・中「新編 新しい国語」 学習目標・「言葉の力」 関連表

書く

小学校：●の項目は、小学校「新編 新しい国語」の各学習材の目標。【 】の項目は、各学習材の「言葉の力」。
 中学校：●の項目は、中学校「新編 新しい国語」の各学習材の目標。【 】の項目は、各学習材の「言葉の力」。

	小学校 1・2年	3・4年	5・6年	中学校 1年	2年	3年
課題設定や取材	課題設定 <ul style="list-style-type: none"> ● 経験したことから友達に知らせたいことを選び、絵日記に書く。 ● よく見て、気づいたことを文章に書く。 【よく見て書く】 <ul style="list-style-type: none"> ● 大きさ、色、形、動きなどをよく見る。 ● よく見て、気づいたことを書く。 ● 様子を思い浮かべて、言葉を集める。 【お話を書く】 <ul style="list-style-type: none"> ● お話の人物を決めて書く。 ● 人物がどんなことをするのかを考えて書く。 ● 友達に伝えたい出来事を見つけて書く。 【書くことを見つける】 <ul style="list-style-type: none"> ● 伝えたい出来事を見つける。 ● 伝えたい気持ちを思い出す。 ● 心が動いたときのことを思い出して、詩を書く。 【詩を書く】 <ul style="list-style-type: none"> ● 心が動いたときのことをよく思い出す。 ● 見たこと、したこと、感じたことを言葉にする。 ● 短い言葉で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろな見方で、書くための材料を集める。 【書くための材料を集める】 <ul style="list-style-type: none"> ● 文章を書くときは、書こうとする出来事や人、物について、いろいろな見方で材料を集めましょう。次のようなメモを使うと、いろいろな見方で考えることができます。(メモ例→3年 p.31) ● 知りたいことに合った方法で調べる。 【レポートを書く】 <ul style="list-style-type: none"> ● 知りたいことに合った方法を選んで、調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察する。 ・ 人に聞く。 ・ 本で調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 想像を広げて言葉を集め、詩を作る。 【連想から発想を広げる】 <ul style="list-style-type: none"> ● 一つの言葉から別の言葉を連想することで、発想を広げることができます。連想した言葉から、また別の言葉を連想して言葉をつなげていくことで、想像や考えを更に広げることができます。書くことや話すことの題材を探したり、自分の考えにふさわしい言葉を選んだりするときなどに、「連想メモ」を使って発想を広げてみましょう。 ● 体験した出来事を思い出し、題材を集める。 【随筆を書く】 <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の体験した、印象に残っている出来事を思い出し、題材を集める。 ● 自分の意見が効果的に伝わるように、資料を活用して書く。 【資料を活用して意見を書く】 <ul style="list-style-type: none"> ● いろいろな資料を集め、伝えたい内容に合った資料を選ぶ。 	構成を考えて書こう 「私」の説明文 <ul style="list-style-type: none"> ● ふだんの生活や自分について振り返り、書くための材料を集め、伝える内容を考える。 【材料を集める】 <ul style="list-style-type: none"> ● 後で絞り込んでいけばよいので、あまり重要ではなさそうなことも含めて、まずはなるべくたくさん挙げてみる。 ● なかなか材料が集まらないときには、自分の所属しているところ(学校・クラス・係・部活動)など、観点を決めて、そこから連想を広げていくのもよい。 作品のよさを表現しよう 歌の鑑賞文 <ul style="list-style-type: none"> ● 作品のよさを伝えるという目的に沿って、鑑賞文を書くための材料を集め、自分の考えをまとめる。 【作品を鑑賞し、考えをまとめる】 <ul style="list-style-type: none"> ● 作品の全体から感じたことを言葉にする。 ● 作品の中で印象に残った部分を見つけ、そこから読み取ったことや感じたことを書き出す。 ● 作品の全体から感じたことと、部分から感じたこととのつながりを考えてみる。 ● 「場面」「心情」「表現」など、観点を持って作品を鑑賞するのもよい。 	調べて考えたことを伝えよう 「食文化」のレポート <ul style="list-style-type: none"> ● ふだんの生活やメディアなどで見聞きすることからテーマを決め、調査して自分の考えをまとめる。 【テーマを設定する】 <ul style="list-style-type: none"> ● 興味のある物事について、まずは百科事典などで調べてみる。 ● 調べて、おもしろいところや、もっと知りたいところを見つけ、そこからテーマを考える。 ● 「なぜ」「どんな」「どこから」など、問いの形でテーマを立てると、問題点が明確になり、新しい発見が期待できる。 ● 複数の事柄を比較するテーマ設定も有効である。 	今の思いをまとめよう 時を超える手紙 <ul style="list-style-type: none"> ● 中学校生活を振り返ったり将来を展望したりして、思いを手紙にまとめる。 【書きたい内容を考える】 <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の体験や望みを見つめ直す。 ● 自分と相手(手紙の宛先)との関わりも意識する。
	取材・調査	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろな見方で、書くための材料を集める。 【書くための材料を集める】 <ul style="list-style-type: none"> ● 文章を書くときは、書こうとする出来事や人、物について、いろいろな見方で材料を集めましょう。次のようなメモを使うと、いろいろな見方で考えることができます。(メモ例→3年 p.31) ● 知りたいことに合った方法で調べる。 【レポートを書く】 <ul style="list-style-type: none"> ● 知りたいことに合った方法を選んで、調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察する。 ・ 人に聞く。 ・ 本で調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろな資料を集め、伝えたい内容に合った資料を選ぶ。 	構成を考えて書こう 「私」の説明文 <ul style="list-style-type: none"> ● ふだんの生活や自分について振り返り、書くための材料を集め、伝える内容を考える。 【材料を集める】 <ul style="list-style-type: none"> ● 後で絞り込んでいけばよいので、あまり重要ではなさそうなことも含めて、まずはなるべくたくさん挙げてみる。 ● なかなか材料が集まらないときには、自分の所属しているところ(学校・クラス・係・部活動)など、観点を決めて、そこから連想を広げていくのもよい。 作品のよさを表現しよう 歌の鑑賞文 <ul style="list-style-type: none"> ● 作品のよさを伝えるという目的に沿って、鑑賞文を書くための材料を集め、自分の考えをまとめる。 【作品を鑑賞し、考えをまとめる】 <ul style="list-style-type: none"> ● 作品の全体から感じたことを言葉にする。 ● 作品の中で印象に残った部分を見つけ、そこから読み取ったことや感じたことを書き出す。 ● 作品の全体から感じたことと、部分から感じたこととのつながりを考えてみる。 ● 「場面」「心情」「表現」など、観点を持って作品を鑑賞するのもよい。 	調べて考えたことを伝えよう 「食文化」のレポート <ul style="list-style-type: none"> ● ふだんの生活やメディアなどで見聞きすることからテーマを決め、調査して自分の考えをまとめる。 【テーマを設定する】 <ul style="list-style-type: none"> ● 興味のある物事について、まずは百科事典などで調べてみる。 ● 調べて、おもしろいところや、もっと知りたいところを見つけ、そこからテーマを考える。 ● 「なぜ」「どんな」「どこから」など、問いの形でテーマを立てると、問題点が明確になり、新しい発見が期待できる。 ● 複数の事柄を比較するテーマ設定も有効である。 	編集して伝えよう 「環境」のミニ雑誌 <ul style="list-style-type: none"> ● 知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書く。 【内容を膨らませて書く】 <ul style="list-style-type: none"> ● ある材料をきっかけに、新たに知りたいことが出てきたら調べたり、関連する体験を思い出したりして、材料を増やしていく。 ● 体験を書くときには、そのときの状況を具体的に描写したり、会話を取り入れたりするのもよい。 観察・分析して論じよう 批評文 <ul style="list-style-type: none"> ● 批評の対象について、観察・分析したり、比較したりして、自分なりの判断を下す。 【複数の対象を比較する】 <ul style="list-style-type: none"> ● 一つの対象だけではよいか悪いかを決めにくい場合でも、複数の対象を比べてみると、どれがよいかを判断しやすくなる。 ● 対象にとって重要だと思うことを自分なりの観点として決め、その観点に沿って比較してみる。 ● 比較することで、それぞれ異なった特徴を持っていることが見えてくる。

- 伝えたいことを、順序よく書く。
- 様子を詳しく書く。
- 【順序を考えて書く】
 - 「始め」には、伝えたい出来事は何かを書く。
 - 「中」には、出来事の様子を順序よく書く。
 - 「終わり」には、出来事を通して、思ったことや考えたことを書く。
- 読む人が分かりやすいように、事柄を整理して書く。
- 読む人に伝わるように、詳しく書く。
- 【紹介する文章を書く】
 - 紹介したいことを詳しく思い出す。
 - 思い出したことを整理してメモに書き出す。
 - メモをもとに、読む人に伝わるように詳しく文章に書く。
- 同じところと違うところを、整理して書く。
- 【比べて分かったことを書く】
 - 色、形、大きさなど、比べるところを決めてから、比べる。
 - 何と何を比べたのかを始めに書く。
 - 同じところ、違うところを整理して書く。

- 伝えたいことを決めて、文章の組み立てを考えて書く。
- 【組み立てを考えて書く】
 - 書く出来事を詳しく思い出す。
 - 「始め」「中」「終わり」に、どんなことを、どんな順序で書くか決める。
- 考えたこととその理由を順序立てて書く。
- 【考えとその理由を書く】
 - 考えを書くときには、なぜそう考えたのか、理由も併せて書く。
 - 理由がいくつかあるときは、初めにいくつあるのかを書き、順序立てて説明する。
 - 理由を表すときに使う言葉を正しく使う。
- 「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」を落とさずに、記事を書く。
- 読む人の興味をひくような割り付けや見出しを考える。
- 【新聞を作る】
 - 分かりやすい記事を書く。
 - ・「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」を落とさずに書く。
 - ・伝えたいことを、分かりやすくするために、写真や図、絵などの資料を取り入れる。
 - 読む人の興味をひくような見出しを付ける。
 - ・見出しはなるべく短い言葉でまとめる。
 - 伝えたいことに合わせて、記事の分量や置き場所を考え、割り付けする。
- 自分の考えを伝えるために、組み立てを考えて文章を書く。
- 【自分の考えを書く】
 - 自分の考えを、はっきりさせる。
 - 考えの理由と、きっかけとなった出来事を整理する。
 - 文章の組み立てを考えて書く。

- 構成を考えて物語を書く。
- 【構成を考えて物語を書く】
 - 物語の「時」、「場所」、「人物」、出来事について想像を広げる。
 - 構成を考えて、筋道の通った物語を書く。
 - ・現実の世界—不思議な世界—現実の世界
 - ・始まりの場面—山場—終わりの場面
- 経験を振り返り、必要な情報を整理して活動報告を書く。
- 【活動報告を書く】
 - 必要な情報を落とさずに書く。
 - ・活動日、活動場所、活動した人、活動内容、活動の成果など
 - 事実を整理して書く。
 - ・活動の時期、内容や結果を明確に書く。
 - ・数値を使って表す。
- 構成を考えて筋道の通った物語を書く。
- 【物語を書く】
 - 「時」、「場所」、「人物」や出来事について、自由に想像を広げる。
 - 物語の構成を考えて書く。
 - ・始まりの場面…物語全体の時や場所、登場する人物が分かるように書く。
 - ・山場…物語の中で、最も大きな変化があるところを書く。
 - ・終わりの場面…出来事を通して、人物の気持ちなどがどのように変わったのかを書く。
- 表現や構成を工夫して、自分の思いを伝える文章を書く。
- 【思いを伝える文章を書く】
 - 自分の思いを伝える文章を書くときには、その思いを持った理由が読む人に伝わるように、自分の経験を詳しく書いたり、表現や構成を工夫したりすることが大切です。
 - 自分の経験を、読む人に詳しく伝えるためには、相手のことを考えて、分かりにくい言葉を説明したり、出来事や事柄の順序に気をつけて書いたりしましょう。

構成を考えて書こう

「私」の説明文

- 材料を分類するなどして整理し、段落の役割を考えて、伝えたい内容にふさわしい文章構成で書く。
- 【材料を整理し、文章を構成する】
 - 材料どうしの共通点を見つけてグループにする。また、各グループの見出しを考えてみる。
 - 整理して選び出した材料に合わせて、「項目を立てて説明する」「時間の経過に沿って説明する」「5W1Hを押さえて説明する」「比較して説明する」など、ふさわしい文章の構成を考える。

案内や報告の文章を書こう

- 必要な情報を選び出し、分かりやすい構成でまとめる。
- 【掲載する情報を選択する】
 - 読者は誰かということ意識して、必要な情報を絞っていく。
 - 文章の形式に応じ、季節の挨拶など、文章を彩る言葉を加える。

調べて考えたことを伝えよう

「食文化」のレポート

- 調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫してレポートを書く。
- 【レポートの構成を工夫する】
 - 基本的には、次のような構成で書くことよい。
 - 1 テーマ テーマと、それを選んだ理由を示す。
 - 2 調査方法 どんな方法で調べたかを示す。
 - 3 調査結果 調べて分かった事実を中心に書く。
 - 4 考察 自分の考えをまとめる。
 - 5 参考資料 参考にした資料の一覧を示す。
 - 「調査結果」は、まとまりごとに分け、載せる順序を考える。

反対意見を想定して書こう

意見文

- 自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書く。
- 【分かりやすい構成で意見文をまとめる】
 - 意見文は、次のような構成で書くことよい。
 - 1 自分の主張を述べる。
 - 2 主張の根拠を挙げる。根拠が複数あるときには、「第一に」「第二に」という書き方（ナンバリング）を用いることよい。
 - 3 反対の主張の根拠を予想し、それに反論する。
 - 4 まとめる（改めて主張を述べる）。

編集して伝えよう

「環境」のミニ雑誌

- 知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書く。

つながり・中心

- 主語と述語の関係に注意して、「ーが…する。」の形の文を書く。
- 助詞「は」「へ」「を」の使い方を理解し、したことを「ーは…へ(を)～」の形の文に書く。
- 経験したことの中から伝えたいことを選び、語と語、文と文とのつながりに注意して文章を書く。
- したことや気持ちを思い出して書く。
- したことを順番に書く。
- 【思い出して書く】
 - したことや気持ちを詳しく思い出す。
 - したことを、順番に書く。
- 様子を観察して、気づいたことを詳しく書く。
- 【観察して書く】
 - 色、形、大きさを書く。
 - 後で読んだときに分かりやすいように、工夫して書く。
 - ・大きさや形が似ているものと比べて書く。
 - ・数字を使って書く。
- 伝えたいことを手紙に書く。
- 【手紙を書く】
 - 相手の名前と自分の名前を忘れずに書く。
 - 自分の気持ちが伝わるように書く。
 - 相手を読みやすいように、字の間違いや言葉の使い方に気をつけて丁寧に書く。
- 想像を広げて、お話を書く。
- 【お話の場面を想像して書く】
 - 場面の様子を想像する。
 - ・人物がしたこと
 - ・人物が話したこと
 - ・人物の気持ち
 - 場面と場面がつながるように書く。

- 出来事の様子やそのときの気持ちが伝わるように書く。
- 【組み立てを考えて書く】
 - 出来事の中で、詳しく伝えたいことを、「中」に書く。
 - ・したこと、見たこと、聞いたこと、話したこと、感じたことなどを書く。
 - 案内するときにだいたいなことを、落とさないように書く。
- 【案内の手紙を書く】
 - 行事に来てもらうために、だいたいなことを落とさないように書く。
 - ・どんな行事か、日時、場所、用意するものなど。
 - 来てほしいという気持ちが伝わるように書く。
 - はがきや封筒の宛名を正しく書く。
- 言葉から想像を広げて詩を作る。
- 【工夫して詩を書く】
 - 言葉から想像を広げて、つながりのある言葉を集める。
 - 連と連のつながりを考えて書く。
 - 声に出して読み、言葉のリズムや響きを確かめる。
- 目的に合わせて書くことを選び、事柄を整理して書く。
- 【目的に合わせた手紙を書く】
 - 手紙の目的が正しく伝わるように書く。
 - ・手紙の目的に合わせて、用件を分かりやすく書く。
 - 手紙の形式に気をつけて書く。
 - ・前文、本文、末文、後付けを書く。

論理的記述

- 調べて分かったことを整理して、文章に書く。
- 【レポートを書く】
 - 調べたこと、調べた理由、調べ方、調べて分かったこと、調べた感想を書く。
 - 調べて分かったことと、自分の感想や考えを分けて書く。

- 自分の意見が効果的に伝わるように、資料を活用して書く。
- 【資料を活用して意見を書く】
 - 資料から読み取れる事実をもとに、それを根拠にして自分の意見を述べる。
 - ・資料からどんなことが分かるか説明する。
 - ・資料のどの部分から自分がそう考えたのかを書く。
 - ・事実と自分の考えとをはっきりと分けて書く。

根拠を明確にして書こう
意見文

- 説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して自分の意見を書く。
- 【根拠を示す】
 - 自分の主張を述べるときには、なぜそう考えるのかという根拠を明確に示すようにする。
 - 根拠は、できるだけ具体的に述べるとよい。また、一つよりも複数の根拠を示したほうが説得力が増すことが多い。
 - 根拠を考えてから、本当にそれで説得力があるかどうかを更に検討して確かめることが大切である。

反対意見を想定して書こう
意見文

- 意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりする。
- 【反論を考える】
 - 反論をするときには、相手側の主張の根拠をよく検討する。
 - 相手側の根拠に反する実例（反例）はないかを探してみる。
 - 相手側が長所として述べていることについて、別の見方はできないかを考えてみる。

観察・分析して論じよう
批評文

- 論の進め方を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。
- 【説得力のある批評文を書く】
 - 自分の判断の根拠は、できるだけ具体的に示す。
 - 対象のうち、最も優れていると思ったものだけでなく、他のものについても言及するとよい。

表現・描写

- 想像した人物の様子が分かるように、物語を書く。
- 【人物を考えて物語を書く】**
 - どんな人物かを考え、その人物の様子が分かるように書く。
 - ・ 人物の名前や性格などを想像し、メモに書き出す。
 - ・ 人物の性格や気持ちが分かるように、行動や会話を考えて書く。
 - 発見や感動が伝わるように、言葉を考えて詩を書く。
 - 【感じたことを詩に書く】**
 - 気持ちが動いたこと、発見したことなどを思い出す。
 - 見たもの、聞いたもの、手触り、においなど、そのときの様子を詳しく思い出す。
 - 自分が感じたことにいちばん合う言葉を考えて、短い言葉で書く。
 - そのときの気持ちがよく伝わるように書く。
 - 【気持ちが伝わるように書く】**
 - その気持ちになったときのことを、よく思い出す。
 - そのときの気持ちや、心が動いたときのことを詳しく書く。
 - 気持ちを表す言葉を工夫して書く。
 - ある人物の立場から出来事を捉え、想像を広げて物語を書く。
 - 【出来事を捉える人物を決めて、物語を書く】**
 - 物語の中で出来事を捉える人物を決める。
 - ある場面の様子を想像し、その前後にどんなことが起きるのかを考える。
 - その人物になったつもりで、行動や気持ちを想像して書く。
 - 目的や形式に合わせて、書き方を工夫して書く。
 - 【目的と形式を考えて書く】**
 - 文章を書くときには、伝える目的や形式を考えて書くことが大切です。伝える目的によって、ポスター、レポート、新聞などのさまざまな形式があります。それらの形式の中では、見出しやキャッチコピー、標語などのように短い言葉で表したり、図や表などの資料を活用したりすることもあります。読み手が分かりやすいように、工夫して書きましょう。

- 案内するときにだいたいなことを、落とさないように書く。
- 【案内の手紙を書く】**
 - 言葉の使い方におかしなところがないか見直す。
- 目的に合わせて書くことを選び、事柄を整理して書く。
- 【目的に合わせた手紙を書く】**
 - 丁寧な言葉を使って書く。

- 思い浮かべたことが伝わるように、表現を工夫して書く。
- 場面の様子や人物の気持ちが伝わるように書く。
- 【構成を考えて物語を書く】**
 - 人物の行動や会話を工夫して書く。
- 言葉を選び、表現を工夫して俳句を作る。
- 【俳句を作る】**
 - 季節の移り変わりを感じたことや発見したことから、題材を集める。
 - 感動や発見を五・七・五で表すために、言葉を選ぶ。
- 分かりやすいリーフレットの構成を考える。
- 【リーフレットを書く】**
 - 読む人が興味を持ち、分かりやすく読めるように、工夫して書く。
 - ・ キャッチフレーズや見出しを使って、分かりやすく内容を伝える。
- 体験した出来事と今の自分の考えを整理して書く。
- 【随筆を書く】**
 - 体験した出来事の様子が読み手に伝わるように、詳しく書く。
 - 体験した出来事を振り返り、今の自分がその出来事をどのように捉えているかを書く。
- 想像したことが伝わるように、表現を工夫して書く。
- 【物語を書く】**
 - 想像したことが読む人に伝わるように、表現を工夫して書く。

作品のよさを表現しよう
歌の鑑賞文

- 作品中の表現を根拠にして、感じたことや考えたことがよく伝わるように鑑賞文を書く。
- 【感じたことや考えたことを表現する】**
 - 作品を鑑賞して感じたことや考えたことを書くときには、作品のどの部分からそれがいえるのか、根拠を示す。
 - 同じことを伝えるのでも、使う言葉によって印象が違ってくる。自分の感覚にぴったりの言葉を探すようにする。

短歌のリズムで表現しよう

- 自然や体験の描き方を工夫して、短歌を作る。
- 【描き方を工夫する】**
 - 鮮明な印象を与えるように言葉を選ぶ。
 - 読者が想像を広げたいかのように書く。

いきいきと描き出そう
短歌から始まる物語

- 情景や心情などをいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作る。
- 【豊かに描写する】**
 - 人物の心情や、行動の理由などを直接説明するよりも、「何を感じているのかな。」「どうしてこんな行動をするのかな。」と読み手に想像させるように人物や場面の様子を描き出す。
 - 形、色、明るさ、動き、音、肌触り、温度、匂い、味など、五感に訴えるような描写をする。会話文を入れたり、擬音語・擬態語を用いたり、比喩などの表現技法を使ったりするのもよい。

言葉遣い

<p>記述</p>	<p>引用・図表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的や形式に合わせて、書き方を工夫して書く。 【目的と形式を考えて書く】 ● 文章を書くときには、伝える目的や形式を考えて書くことが大切です。伝える目的によって、ポスター、レポート、新聞などのさまざまな形式があります。それらの形式の中では、見出しやキャッチコピー、標語などのように短い言葉で表したり、図や表などの資料を活用したりすることもあります。読み手が分かりやすいように、工夫して書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 読み取った情報を活用して文章を書く。 【資料を活用する】 ● どの資料から分かることか、はっきりと示す。 ● 数値や名前は正確に書く。 ● 資料から読み取ったこと、そこから考えたことを書く。 ● 分かりやすいリーフレットの構成を考える 【リーフレットを書く】 ● 読む人が興味を持ち、分かりやすく読めるように、工夫して書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい内容をより効果的に伝えるため、写真や図表を取り入れる。 	<p>学校新聞の記事を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図表を用いて情報を効果的に伝える。 【図表を用いて情報を伝える】 ● 伝えたい情報に適した図表の種類を選び、表し方を工夫する。 ● 図表の作り方によって、伝わり方が変わること ● 情報の出所を明示する。 		<p>編集して伝えよう</p> <p>「環境」のミニ雑誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書く。 【内容を膨らませて書く】 ● 調べて分かったことをもとに、自分なりの表現でまとめ直す。または、資料の言葉をかぎ括弧で区切って引用する。資料をまる写しにして、それを自分の文章のように示すことは避ける。 <p>観察・分析して論じよう</p> <p>批評文</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 論の進め方を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。 【説得力のある批評文を書く】 ● 必要に応じて参考資料の一部を引用してもよい。引用する文章はかぎ括弧に入れて、出典（書名など）を明示する。
<p>推敲</p>	<p>推敲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的に合わせて書くことを選び、事柄を整理して書く。 【目的に合わせた手紙を書く】 ● 書いた手紙を読み返し、間違いがないか確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現の効果を考えて俳句を作る。 【表現の工夫を考える】 ● 伝えたいことを表すために、効果的な表現を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 様子をほかのものにたとえる。 ・ ふさわしい言葉を探す。 ・ 言葉の順序を入れ替える。 	<p>小さな発見を詩にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 言葉を選び、表現を工夫して、詩を仕上げる。 【表現を工夫する】 ● 同じ語句の反復（繰り返し）を取り入れるなどして、リズムをよくする。 ● 新鮮なものの見方を、比喩で表す。擬人法（比喩を使って人以外のものを人のように表す方法）などを用いるのもよい。 	<p>依頼状やお礼状を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方などに注意して推敲する。 【手紙を推敲する】 ● 手紙の形式を守っているか。 ● 伝える情報に漏れがないか。 ● 言葉遣いは適切か。失礼なところはないか。 <p>タウン誌の記事を推敲しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 構成や表現の効果について考えて、文章を推敲する。 【より効果的に伝わるように推敲する】 ● 読み手や目的を考えて、不要な情報は削除する。 ● 順序を入れ替えたほうがよいところはないかを検討する。 ● 興味をひく書きだし、言葉の選び方、臨場感のある描写、会話文の使用、文末表現の仕方など、表現を工夫する。 ● 読み手の興味・関心をひく見出しを付ける。 	<p>編集して伝えよう</p> <p>「環境」のミニ雑誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 書いた文章を読み返し、推敲して紙面を仕上げる。 【推敲して読みやすい文章に仕上げる】 ● 不正確な表現や難解な言い回しは避け、別の表現に言い換える。 ● 説明が不足していると思われるところは、より丁寧に説明する。 ● 余分と思われるところは省いて簡潔にする。 <p>今の思いをまとめよう</p> <p>時を超える手紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 下書きした手紙を読み返し、文章を整えて清書する。 【手紙の書きだしと結びを整える】 ● 改まった手紙では、「拜啓」と書きだしてから、時候の挨拶として、今の季節らしきを感じさせる事柄について簡潔に書く。このとき、本文の最後は「敬具」と結ぶ。 ● 親しい相手に宛てた場合などには、「前略」と書きだして、時候の挨拶などを省く書き方もある。結びは「草々」とする。
<p>交流</p>	<p>交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 書いた文章を読み返し、一年間の学習を振り返る。 ● 書いた文章を読み返し、一年間の学習を振り返る。 ● 文章のよいと思ったところが分かるように書く。 ● 自分の思いや考えが伝わるように書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 感じ方の違いを伝え合う。 ● 書いた文章を読み返し、文章の種類や表現について話し合う。 ● 表現の仕方に着目して、よいところを伝え合う。 【表現の工夫を考える】 ● 作品を味わうときにも、表現の工夫に目を向ける。 	<p>根拠を明確にして書こう</p> <p>意見文</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さや説得力などを確かめ合う。 【読んで確かめ合う】 ● 分かりやすい文章構成で、根拠が明確に示されているか。 ● 示されている根拠に説得力はあるか。 ● 的確な言葉遣いで書かれているか。誤字や脱字はないか。 	<p>いきいきと描き出そう</p> <p>短歌から始まる物語</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 書いた物語を読み合って、材料の活用の仕方などについて意見を交換し、自分の考えを広げる。 【意見交換の観点を持つ】 ● 材料にした短歌からうまく発想を広げているか。 ● 物語の流れ（筋立て）に無理がないか。 ● 情景や人物の描写を工夫して場面を描いているか。 	<p>俳句を作って句会を開こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 俳句を作って互いに読み合い、作品のよさを評価する。 【読み合って評価する】 ● 五・七・五のリズムを生かしているか。 ● 季語を一つ詠み込んでいるか。 ● 情景や心情が伝わってくるか。 ● はっとさせられる新鮮な表現になっているか。 <p>観察・分析して論じよう</p> <p>批評文</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 書いた批評文を読み合って評価し、もの見方や考え方を深める。 【批評文を評価する】 ● 対象をしっかり観察・分析しているか。 ● 結論を明快に示しているか。 ● なぜそう結論したのかという根拠を具体的に述べているか。 ● 読者をひきつけるように表現を工夫しているか。

小・中「新編 新しい国語」 学習目標・「言葉の力」 関連表

読む

小学校：●の項目は、小学校「新編 新しい国語」の各学習材の目標。【 】の項目は、各学習材の「言葉の力」。
 中学校：●の項目は、中学校「新編 新しい国語」の各学習材の目標。【 】の項目は、各学習材の「言葉の力」。

	小学校 1・2年	3・4年	5・6年	中学校 1年	2年	3年
(音読・) 語句の意味の理解 音読・朗読	<ul style="list-style-type: none"> ●言葉のリズムを楽しんで音読する。 ●場面の様子を想像しながら、楽しんで読む。 ●場面の様子を想像しながら、物語の展開を楽しんで読み、好きなどを音読する。 ●言葉のリズムや響きを楽しみながら、詩を音読する。 ●言葉のまとまりに気をつけて、声に出して読む。 <p>【声に出して読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人物の様子を思い浮かべながら声に出して読みましょう。 ・「誰が」「どうした」のか考えながら読む。 ・まる(。)やてん(、)に気をつけて読む。 <p>(ほか、詩歌学習材)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●場面の様子を思い浮かべて、音読する。 <p>【物語を音読する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文章などを声に出して読むことを音読といえます。物語を音読するときは、それぞれの場面の人物の様子や気持ちを想像し、声の大きさや読む速さを考えて読みましょう。 ●人物の様子や気持ちを想像して音読する。 <p>【工夫して音読する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●音読するときには、場面ごとの人物の様子や気持ちを想像し、そのときの人物の様子や気持ちが表れるように読むことが大切です。 その場面の人物の気持ちに合わせて、声の大きさ、読む速さ、間の取り方、声の出し方を考え、工夫して音読しましょう。 <p>(ほか、詩歌学習材)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人物の思いが伝わるように工夫して音読する。 <p>【聞き手に伝わるように音読する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人物の気持ちや思いが、聞き手に伝わるように音読しましょう。そのためには、書かれていることと人物の気持ちや思いを想像すること、想像したことをどのように表現するかを考えることが大切です。次のことを手がかりにして、どのように読むかを考えましょう。 ・人物の気持ちに合った声の出し方を考える。 ・時間の経過や人物の行動や気持ちを考えて、読む速さを変えたり、間を取ったりする。 ・だいたいだと思うところを強調する。 <ul style="list-style-type: none"> ●人物の心情が表れるように朗読する。 ●自分の感じたことや考えたことが伝わるように朗読する。 <p>【聞き手に伝わるように朗読する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●朗読するときには、物語や詩を丁寧に読み、その作品を自分はどう捉えたのかが、聞き手に伝わるように読むことが大切です。 自分が感じたことや考えたことが聞き手に伝わるように、印象に残った場面や特にだいたいと思った言葉を工夫して読みましょう。物語や詩を自分なりに捉え、場面の様子に合わせた声の出し方、声の強弱、読む速さ、間の取り方などを考えて読みましょう。 <p>(ほか、詩歌学習材)</p>	<p>風の五線譜</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。 <p>話し方はどうかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ●話し方について知り、声に出して文章を読む。 <p>詩の心——発見の喜び</p> <ul style="list-style-type: none"> ●言葉の意味を的確に捉え、詩を音読して読み味わう。 <p>月夜の浜辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 	<p>未来へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●時を表すさまざまな表現に注意して詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。 <p>落葉松</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 	<p>生命は</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩の意味や効果的な表現を捉え、読み方を工夫して音読する。 <p>初恋</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表現の特徴を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。
	語句の意味の理解				<p>名づけられた葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩の中で使われている言葉の意味を的確に捉える。 	<p>メッセージをどう聞くか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●キーワードの意味に注意して、筆者の考えを捉える。 <p>短歌を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情景や心情を表す語句に注意して、短歌を読み味わう。 <p>わたしが一番きれいだったとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心情が読み取れる言葉に注意して詩を読む。

- 事柄の順序に気をつけて、文章の内容を正しく読み取る。
- 書いてあることを正しく読む。
 - 【説明の文章を読む】
 - 「いろいろなふね」は、船の役目や作りについて説明している文章です。説明の文章を読むときには、どんなことを説明しているのかを考えながら、正しく読みましょう。
- 似ているところや違うところを考えながら読む。
 - 【比べて考える】
 - 比べて考えると、似ているところや、違うところを見つけることができます。
- 順序に気をつけて読む。
 - 【説明の順序】
 - 説明の文章を読むときは、何がどんな順序で書いてあるかに気をつけて読みましょう。順序に気をつけて読むことで、書いてあることを、より正しく捉えることができます。
- 説明の仕方の違いに気づく。
 - 【説明の仕方の違い】
 - 説明の文章には、いろいろな説明の仕方があります。それぞれの説明の仕方の違いを考えながら読みましょう。
- 説明の仕方に気をつけて読む。
- 理由を考えながら読む。
 - 【理由を考えながら読む】
 - 役割や働きを説明している文章を読むときには、「何のためにそうなっているのか」という理由を考えながら読むことが大切です。

- 段落ごとに内容を捉えながら読む。
 - 【段落の内容を捉える】
 - 文章の中にいくつかある、小さな内容のまとまりを段落といいます。一つ一つの段落に何が書かれているかを捉えることで、文章全体の内容を捉えやすくなります。段落の内容を捉えるときは、繰り返し出てくる言葉や題名とつながりがあると思う言葉など、だいたいだと思う言葉や文に気をつけて読むようにしましょう。
- 事柄の取り上げ方や説明の仕方の工夫を読み取る。
 - 【書き手の工夫を読み取る】
 - 同じことを伝えたい文章でも、書き手のねらいに合わせて、取り上げる事柄や、説明の仕方の工夫が違ってきます。文章だけでなく、図や表も、書き手の工夫を読み取るうえで大切です。図や表があるときには、文章との結び付きを考えながら読みましょう。
- 段落どうしの結び付きを考えて読み、文章のまとまりを捉える。
 - 【文章のまとまりを捉える】
 - 文章を読むときは、全体がいくつかのまとまりからできているかを考えることが大切です。まとまりをつかんだうえで、それぞれのまとまりにどのようなことが書かれているかを考えていくとよいでしょう。まとまりは、一つ、またはいくつかの段落が集まってできています。それぞれの段落の内容を捉え、段落どうしがどのように結び付いているのかを考えることで、まとまりの内容を捉えやすくなります。
- 目的に合わせた表し方の違いを読み取る。
 - 【表し方の違いを読み取る】
 - 私たちの身の回りには、さまざまな文章があります。それらの文章を読むときには、目的に合わせた表し方の違いがあることに目を向けるようにしましょう。表し方の違いを読み取る際には、次のような点に注意しましょう。
 - ・どのような事柄が取り上げられているか。
 - ・写真や図などが、どのように使われているか。
 - ・書かれている事柄が、どのような順で並べられていて、どんなことが強調されているか。
- 何をどのように比べているかを読み取る。
- 筆者の考えがどのように表れているかに注意して読み取る。

- 文章の構成を考えながら、要旨をまとめる。
 - 【要旨を捉える】
 - 説明文で、筆者の述べたいことの内容を要旨といいます。要旨は、文章の中にはっきりと示されている場合、文章全体から読み取らなければならない場合があります。要旨を捉えるには、それぞれの段落やまとまりにどのようなことが書かれているかを整理し、全体の構成を考えながらまとめていくとよいでしょう。そのときは、それぞれの段落やまとまりが、文章全体の中でどのような働きをしているかを考えることが大切です。
- 記事と写真との関係に注意しながら、書き手の意図を読み取る。
 - 【記事の書き手の意図を読む】
 - 同じ出来事を取り上げた新聞記事でも、記事によって違いがあります。次のような点に注意して、それぞれの記事の書き手の意図を考えながら読むようにしましょう。
 - ・見出しや写真などを比べ、その効果を考える。
 - ・記事のリードを比べ、内容を大きくつかむ。
 - ・記事の内容の、同じところと違うところを考える。
- 例と意見との関係に注意して、筆者の考えを読み取る。
- 事実と意見との関係に注意して、筆者の考えを読み取る。
- 読み手を説得するための工夫を読み取る。
 - 【説得の工夫を読み取る】
 - 文章の書き手は、自分の意見を読み手に伝え、説得するために、いろいろな工夫をします。文章を読むときには、書き手による説得の工夫に注意しながら読みましょう。
 - 説得の工夫には、例えば次のようなものがあります。
 - ・自分の経験を述べる。
 - ・見たり聞いたりしたことを述べる。
 - ・資料に基づく具体的な数値を使う。
 - ・文章や言葉を引用して述べる。
 - また、どういう構成で述べるかということも説得の工夫の一つです。その場合、書き手の意見や主張が、文章のどの部分に書かれているのかということに注意しましょう。

- オオカミを見る目
 - 段落の役割や段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。
 - 【段落の役割や段落どうしの関係をつかむ】
 - 説明的な文章の内容や構成を捉えるには、次の三つに着目し、文章全体をいくつかのまとまりに分けてみるとよい。
 - ・各段落の内容……キーワードを見つける。
 - ・文章全体における段落の役割……段落の役割には、例えば、次のようなものがある。導入、問題提起・話題提示、説明、補足、まとめ など
 - ・前後の段落との関係（段落どうしの関係）……接続表現（つなぐ言葉）や指示語（指し示す言葉）を手がかりにする。
- ズメは本当に減っているか
 - 事実と筆者の考えを読み分けながら、文章の展開を捉える。
 - 【事実と筆者の考えを区別する】
 - 事実とは、確かなこと、例えば、実際に起こった出来事、信頼できるデータ、科学的に証明された事柄などである。
 - 考えとは、まだ確かでないこと（推測）や、人によって賛成・反対が分かれること（意見）である。
 - 考えがどのような根拠から導かれているかにも着目する。
 - 文末表現が事実と考えの区別の手がかりになることもある。

- 経節——世界に誇る伝統食
 - 文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。
 - 【文章の構成を捉え、要約する】
 - 長い文章の構成を捉えるには、次のようにするとよい。
 - ・問いや話題を提示している文や段落、内容のまとめに当たる文や段落を見つけ、それを手がかりに文章をいくつかのまとまりに分ける。
 - ・まとまりどうしの関係を捉える。
 - 要約するときには、構成を捉えることに加えて、目的や相手に応じて内容を選んだり絞ったりすることが必要である。

- 哲学的思考のすすめ
 - 論の進め方を捉え、文章の内容を読み取る。
 - 【論証を吟味する】
 - 論証を吟味するときには、まず、結論（筆者の考え）とその根拠を捉える。
 - 次に、示されている根拠が正しいかどうか、また、根拠から結論が適切に導かれているかどうかを吟味する。例えば、結論について、反例やほかの考えの可能性がないかを考えるとよい。

- 絶滅の意味
 - 論の進め方に着目して、筆者の主張を捉える。
 - 【説得力を高めるための論の進め方を捉える】
 - 何らかの主張を述べる文章を読むときには、説得力を高めるための論の進め方に着目しよう。
 - ・主張を支える根拠は、具体例を示すなどして詳しく述べると、説得力を増す。
 - ・あえて筆者とは異なる立場の主張を取り上げ、それに反論することで、説得力を高める。

- 人物の行動や会話を中心に、場面の様子を想像しながら読む。
- 誰がどんなことをしたかを考えて読む。
- 【誰がどんなことをしたかを考える】
 - お話を読むときには、誰がどんなことをしたかを考えながら読みましょう。
- 人物がしたことの順序を考えて読む。
- 【人物がしたことの順序を考える】
 - 場面ごとに、人物がしたことを確かめながら読みましょう。文章の中の言葉をもとに、人物が、始めにどうしたのか、次にどうしたのかを思い浮かべて読みましょう。
- 出てきた人物に気をつけて、場面を分ける。
- 【場面を分ける】
 - お話は、いくつかの場面に分けられます。場面は、次のようなところで変わることが多くあります。
 - ・時間がたつ。
 - ・場所が変わる。
 - ・新しい人物が出てくる。
 - お話の中の「時」、「場所」、「人物」に気をつけて読みましょう。
- 場面の様子を思い浮かべて読む。
- 【場面の様子を思い浮かべる】
 - お話を読むときには、それぞれの場面の時や場所、人物がしたことを確かめて、そのときの人物の様子や気持ちを思い浮かべながら読みましょう。お話を更楽しく読むことができます。

- 起きた出来事を確かめ、人物について想像しながら読む。
- 物語のしかけにつながる言葉に気をつけて読む。
- 【物語のしかけ】
 - 物語には、読んだ後で「そうだったのか。」と分かるようなヒントが隠されている場合があります。これは、物語をおもしろくするためのしかけの一つです。ヒントが、物語の出来事とどのようにつながっているのか、考えてみましょう。
- 中心となる人物の気持ちを考えながら読む。
- 【中心となる人物を見つける】
 - 物語全体を通して、気持ちやその変化がいちばん詳しく書かれている人物を中心となる人物といいます。物語を読むときは、中心となる人物に気をつけて読みましょう。
 - ・物語の中で、中心となる人物は、誰かを確かめる。
 - ・人物の行動や会話をもとに、そのときの人物の気持ちを想像する。
- 人物の行動や会話から、どんな人物かを想像して読む。
- 【どんな人物かを考える】
 - 物語を読むときには、出てくる人物がどんな人物かを思い浮かべて読むと、より楽しく読むことができます。どんな人物かを考えるためには、人物の行動や会話、性格を表す言葉などに気をつけて読むことが大切です。また、人物がどうしてそのような行動をしたのか、そのときの気持ちも考えながら読みましょう。
- 中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読む。
- 【中心となる人物の変化】
 - 物語の中で、中心となる人物の気持ちが大きく変化することがあります。中心となる人物の気持ちが最も大きく変化した部分を捉えると、物語を深く理解することができます。次のことに気をつけて読みましょう。
 - ・物語のどこで、人物の気持ちが大きく変化したのか。
 - ・それまでの気持ちから、どのように変わったのか。
 - ・どうしてその変化が起きたのか。
- 人物の気持ちの変化と、中心となる人物とほかの人物との関わりを考えながら読む。
- 【中心となる人物とほかの人物との関わり】
 - 中心となる人物の気持ちの変化は、ほかの人物の行動や気持ちと大きく関わっていることがあります。中心となる人物がほかの人物とどのように関わっているかを考えながら、物語を読みましょう。次のことに気をつけましょう。
 - ・中心となる人物は、どのような人物か。
 - ・中心となる人物とほかの人物との間にどのような出来事があるか。
 - ・中心となる人物の気持ちの変化するきっかけとなる出来事は何か。また、その出来事にほかの人物はどのように関わっているのか。

- 物語の構成を捉え、山場で起きた変化について考える。
- 【物語の山場を捉える】
 - 物語全体を通して、最も大きな変化が起きるところを山場といいます。山場で何がどのように変わったのかを考えることで、より深く物語を味わうことができます。山場で起きる変化の多くは、中心となる人物の変化に関わるものです。山場で起きる変化を考えるために、次のことに気をつけて読みましょう。
 - ・中心となる人物の気持ちや人物と人物の関係、その場の状況などが、それまでと比べて大きく変化した部分を捉える。
 - ・それぞれの場面の「時」、「場所」、「人物」と起きた出来事を確かめる。
 - ・始まりの場面と終わりの場面を比べ、物語全体で何が変わったのかを確かめる。
- 場面の様子や風景の描写を捉え、人物の心情について考える。
- 【情景描写から人物の心情を考える】
 - 物語には、場面の様子や風景が目前にあるかのように描写されている部分があります。そこには、場面の様子や風景を捉えている人物の心情が表れていることがあります。これを情景描写といいます。物語を読むときには、直接的に気持ちが書かれている部分だけでなく、人物の行動や会話、地の文に描かれている情景に、そのときの人物のどのような心情が表れているのか、考えながら読みましょう。
- 人物と人物との関係を手がかりに、人物の心情を捉える。
- 【人物と人物との関係を考える】
 - 物語の人物は、それぞれの考えや心情を持っています。人物どうしの関わりは、互いの行動や心情に影響を与えます。中心となる人物の心情を捉えるためには、人物どうしがどのような関係にあるのか、互いにどのように思っているかなどを考えて読むことが大切です。

飛べ かもめ/さんちぎ

- 場面の様子や登場人物の思いに注意して、作品を読み味わう。
- 【表現を手がかりにして考える】
 - 登場人物がどんなことを感じたり考えたりしているのかを捉えるためには、登場人物の言葉や行動・態度などを描いた表現が手がかりになる。
 - 場面の様子(情景)を描き出した表現にも着目するとよい。
- 少年の日の思い出
 - 場面の展開を捉え、人物や情景を描いた表現に着目して、作品を読み深める。
 - 【伏線に着目する】
 - 作品中にさりげなく描かれている事柄が、後で出てくる事柄と関連し合っ、意味や効果を生み出すようなとき、前のほうに書いてある表現のことを「伏線」という。
 - 伏線に着目することで、作品の読みをより豊かなものにしていくことができる。

字のない葉書/卒業ホームラン

- 登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているかに注意して、作品を読み味わう。
- 【登場人物の言葉や行動の意味に注意する】
 - 登場人物の言葉から心情を捉えるときには、言葉の内容だけでなく、どんな言葉遣いをしているかということにも着目するとよい。
 - 行動や態度からは、言葉にならない思いが読み取れることもある。
- 走れメロス
 - 人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。
 - 【人物像に着目する】
 - 登場人物の言葉や行動・態度などがどのように描かれているかに着目すると、その人物の人物や考え方などの特徴、つまり人物像を捉えることができる。
 - 人物の描かれ方にどのような意味があるのかを考えると、作品を深く読み味わうことができる。

形/百科事典少女

- 場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、作品を読み味わう。
- 故郷
 - 場面の展開と人間関係の変化を捉えて、作品を読み深める。
 - 【人間関係の変化に着目する】
 - 作品中に主要な人物が何人が登場する場合、それぞれの人物には異なった特徴が設定されていることが多い。
 - 立場や考え方の異なる人物が登場し、さまざまな出来事が起こること、人間関係が新たに生まれたり変化したりしながら場面は展開していく。
 - 人間関係の変化を捉え、その背景や理由を考えることは、作品を読み深めるうえで大切である。

<p>文章の解釈</p>	<p>書き抜き・引用・要約</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● だいたいな言葉や文を見つけ、書かれていることを要約する。 <p>【要約する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 書かれている内容を短くまとめることを要約といいます。要約するには、何について書かれているかを考えながら読み、それぞれの段落の中にある、だいたいな言葉や文を見つけることが大切です。そのうえで、伝えたいことに合わせて、分かりやすく書き換えたり言葉を補ったりして、まとめていくようにしましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 目的に応じて引用したり要約したりする。 <p>【引用する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ほかの人が書いた文や言葉などを自分の文章の中に使うことを、引用といいます。引用を使うことで、書き手は自分の考えや説明を、読み手に分かりやすく伝えることができます。引用をするときには、自分の考えや説明したいこと、もとの文章に書かれていたこととの区別を、しっかりとつけるようにしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章の構成を考えながら、要旨をまとめる。 <p>【要旨を捉える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 説明文で、筆者の述べたいこと、中心を要旨といいます。要旨は、文章の中にはっきりと示されている場合と、文章全体から読み取らなければならない場合があります。 ● 要旨を捉えるには、それぞれの段落やまとまりにどのようなことが書かれているかを整理し、全体の構成を考えながらまとめていくとよいでしょう。そのときは、それぞれの段落やまとまりが、文章全体の中でどのような働きをしているかを考えることが大切です。 		<p>経節——世界に誇る伝統食</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。 <p>【文章の構成を捉え、要約する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長い文章の構成を捉えるには、次のようにするとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 問いや話題を提示している文や段落、内容のまとめに当たる文や段落を見つけ、それを手がかりに文章をいくつかのまとまりに分ける。 ・ まとまりどうしの関係を捉える。 ● 要約するときには、構成を捉えることに加えて、目的や相手に応じて内容を選んだり絞ったりすることが必要である。 	
<p>自分の考えの形成</p>	<p>考えの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文章の形式 		<ul style="list-style-type: none"> ● 物語の構成や表現の工夫を考えながら読む。 <p>【表現の工夫を見つける】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物語には、さまざまな表現の工夫があります。おもしろいと思った表現や工夫されていると思った表現を探し、その効果を考えながら読みましょう。より深く物語を楽しむことができます。次のような点に気をつけて探してみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名の意味 ・ 二つの意味を持つ言葉や表現 ・ 様子を表す言葉 ・ 色彩を使った表現 ・ たとえを使った表現 ・ 同じ言葉や文の繰り返し ・ 物語のしかけ 	<p>オオカミを見る目</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 筆者の文章の書き方について、自分の考えを持つ。 <p>少年の日の思い出</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作品の構成の工夫について、自分の考えを持つ。 <p>トロッコ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文学作品を読み、情景描写などの表現の効果について考える。 	<p>短歌を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。 <p>【短歌を鑑賞する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 短歌の形式を理解する。短歌は、五・七・五・七・七の三十一音を定型とする。 ● 音読して、短歌のリズムを感じ取る。 ● 句切れに注意して、音読や意味の理解に役立てる。 ● 語句の意味や表現技法などに注意して、情景や心情を捉える。 ● 読み取ったことから、想像を広げていく。 <p>走れメロス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 場面の展開や表現の仕方について、自分の考えをまとめる。 	<p>俳句の読み方、味わい方</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 俳句のよさを評価してまとめる。 <p>【俳句を鑑賞する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 俳句の形式を理解する。五・七・五の十七音を定型とし、季節感を表す言葉「季語」を詠み込むのが基本。これを「有季定型」という。 ● 音読して、俳句のリズムを感じ取る。 ● 季語について調べたいときには、季語を分類・整理した書物「歳時記」を使うとよい。 ● 切れ、切れ字、取り合わせなどにも留意する。切れ字には、主なものに「や」「かな」「けり」がある。 ● 季語のない無季の俳句や、定型によらない自由律の俳句もある。 <p>形／百科事典少女</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 場面の展開や表現の仕方に着目し、作品を評価する。 <p>【作品を批評する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あるものの特徴を捉えて、そのよさや価値について評価して論じることを「批評」という。小説などの文学作品を批評するときには、次のような点に着目するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の人物や考え、場面の展開、表現の仕方などの特徴を捉え、それらの意味や効果を考える。 ・ 作品のどういうところに工夫や魅力を感じるか、作品について自分はどう評価するかなどを述べる。 <p>黄金の扇風機／サハラ砂漠の茶会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文章を読み比べて、論の進め方や表現について評価する。 <p>【読み比べて自分の考えをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 複数の文章を読み比べるときには、次の点に注意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の構成や展開、具体例の用い方、文末表現や言葉の使い方など、書き方にも着目して、その意図や効果を捉える。

- 誰がどんなことをしたかを考えて読む。
- お話の好きなところを選び、声を出して読む。
- 【お話の好きなところを見つける】
- お話を読んで、どんなところが「好きだな。」「おもしろいな。」と思いましたが。好きなところを見つけると、お話を読むことが、更になんか楽しくなります。
- 人物の様子を思い浮かべて、声や動きで表す。

- 文章や絵から読み取ったことをもとに考える。
- 書いてあることを整理しながら読む。
- 【書いてあることを整理する】
- 文章や図にさまざまなことが書いてあるときには、それぞれがどのような点について説明しているのかを考えて、整理していくことが大切です。整理することで、筆者の説明していることを、よりはっきりと読み取ることができます。整理するときには、書いてあることとの関係が分かりやすくなるように、図や表にまとめるとよい。
- 二つの文章に書かれていることを関係づけて読む。

- 【文章を関係づけて読む】
- いくつかの文章を関係づけて読むことで、筆者の考えや、文章に書いてあることを、より深く捉えることができます。また、書いてあることや一つのテーマに対して、多面的に考えることもできます。文章を関係づけて読むときには、次のような点に気をつけるとよいでしょう。
 - ・一つの文章に書かれていることを、ほかの文章を読むことで確かめる。
 - ・一つの文章には書かれていないことを、ほかの文章から読み取る。

- 文章に書かれていることに対して、多面的に考える。
- 【文章に対して多面的に考える】
- さまざまな視点から多面的に考えながら文章を読むことで、内容や筆者の意図をより深く捉えたり、自分の考えを深めたりすることができます。多面的に考えるには、次のような点を手がかりにしてみましょう。
 - ・筆者の考えに納得できるかどうか。
 - ・筆者は、どんなことを説明するために、どのような例を挙げているか。
 - ・筆者の考えは、ほかの例についてはどういえるか。

- 文章に対する自分の考えを持つ。
- 【文章に対する自分の考えを持つ】
- 説明文を読むときは、筆者がどのようにして、自分の考えを筋道立てて説明したり読み手を説得したりしようとしているのかを捉えることが大切です。そのためには、次のことに気をつけて読むとよいでしょう。
 - ・筆者は、どのような感想や意見を述べているか、また、どのような判断や主張をしているか。
 - ・筆者は、どのような事実を例として挙げて、理由や根拠にしているか。
- そのうえで、書かれている事柄について、自分の知識や経験などと結び付けながら、自分はその意見についてどう考えるかということ意識して読むようにしましょう。

- 物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめる。
- 【物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考える】
- 物語が自分に最も強く語りかけてきたことは何かを考えることで、物語をより味わい、自分の感動の中心を捉えることができます。そのためには、まず物語に書かれていることを丁寧に読み、内容の理解を深めることが大切です。特に、山場で起きる大きな変化は物語の内容の中心と深く関わります。どのような変化が起きたのか、なぜその変化が起きたのかを考えましょう。物語が最も強く語りかけてきたことを考えるときには、次のことを手がかりにしましょう。
 - ・物語の山場で起きる大きな変化とその理由。
 - ・物語の中でだいじだと思える言葉
 - ・題名の意味

- 文章を読んで自分の考えを広げ、深める。
- 【自分の考えを広げ、深める】
- 私たちはさまざまな文章を読むことによって、ものの見方や考え方を広げ、自分の考えを深めることができます。これまでの説明文の学習を通して身につけてきたさまざまな「言葉の力」を発揮し、文章の内容や筆者の主張、述べ方などについて読み取ったり、書かれていることを関係づけて捉えたりすることで、自分の考えを広げ、深めていきましょう。
- 文章と詩を読んで、自分の考えや思いを深める。

- 詩の心——発見の喜び
- 詩を鑑賞し、自分のものの見方を広くする。

- 【詩を鑑賞する】
- 音読して、言葉の響きを感じ取る。
- 描き出されている風景や、詩に込められている思いを想像する。
- 比喩などの表現技法に着目する。

- 飛べ かもめ/さんちぎ
- 作品から読み取ったことをもとに想像を膨らませ、自分のものの見方を広くする。

- スズメは本当に減っているか
- 文章の内容や、筆者のものの見方、考え方について、感想や考えを持つ。

- 名づけられた葉
- 詩に表れているものの見方を捉え、自分の考え方を広くする。

- 字のない葉書/卒業ホームラン
- 登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを持つ。

- 鯉節——世界に誇る伝統食
- 筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。

- 哲学的思考のすすめ
- 筆者の考えなどについて、知識や体験と関連づけて自分の考えを持つ。

- わたしが一番きれいだったとき
- 詩に表れているものの見方や考え方について、感想を持つ。

- 坊っちゃん
- 文学作品を読み、登場人物の考え方や人柄などについて考える。

- 絶滅の意味
- 人間社会と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ。

- 黄金の扇風機/サハラ砂漠の茶会
- 文章を読み比べて、文章の内容について自分の考えを持つ。

- 【読み比べて自分の考えをまとめる】
- 複数の文章を読み比べるときには、次の点に注意する。
 - ・考えの共通点と相違点を整理する。
 - ・考えの根拠がどのようなものであるかを比較する。
 - ・自分の知識や体験とも関連づけて、それぞれの考えとその根拠を吟味しながら、自分の考えをまとめる。

- 故郷
- 作品を読んで、社会の中で生きる人間について考え、自分の意見を持つ。

- レモン哀歌/生ましめんかな
- 詩に描かれた生と死について考え、感想を持つ。

- 最後の一句
- 文学作品を読み、人間や社会について考える。

交流	<ul style="list-style-type: none"> ●好きな昔話を選び、友達に紹介する。 ●場面の様子が伝わるように紙芝居をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな国や地域の物語を読んで、紹介する。 ●物語の中の文や言葉を引用して紹介する。 ●場面の様子や人物の気持ちの変化が現れるように音読する。 <p>【脚本を読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●脚本は、人物のせりふと書き（場面の様子や人物の動作などを説明する言葉）からできています。物語では、地の文に場面の様子や人物の気持ちが書かれていることがあります。脚本には、地の文がありません。人物のせりふと書きに表れていることを手がかりに、それぞれの場面の様子や人物の様子、気持ちを想像しながら読みましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝記を読んで、自分の感想を文章にまとめる。 ●自分の感想と深く関わる文章や言葉を用いて推薦する。 			
読書と情報活用	<ul style="list-style-type: none"> ●人物のしたことや様子を考えながら読む。 ●お話を読んで、人物の好きなところを見つける。 <p>【お話の人物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お話の中に出てくる人や、人と同じように話したり動いたりする動物などを、人物といいます。 ●人物のしたことや様子を考えながら読みましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ●お話を読んで、おもしろいと思うところを見つける。 <p>【何がどうなったのかを考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お話の中に出てくる人物は、お話の始めのときの様子から、大きく変わることがあります。それが、お話のおもしろさにつながります。始めは、どうだったのか、最後にどうなったのか、考えながら読みましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●起きた出来事を確かめ、物語のあらすじをまとめる。 <p>【あらすじをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人物がどんなことをしたか、どんな出来事があったかなどを中心に、物語の内容を短くまとめたものをあらすじといいます。あらすじをまとめるときには、起きた出来事を順序よく整理し、その中でだいたいなことを取り上げてまとめましょう。あらすじを伝えることで、物語の内容の大体を伝えることができます。 <ul style="list-style-type: none"> ●物語を深く味わうために、つながりのある本を併せて読む。 <p>【つながりのある物語を読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一つの物語だけでなくその物語とつながりのある物語を併せて読むことで、物語をより深く味わうことができます。つながりのある物語には、同じ人物が出てくるもの、物語の世界が同じものなどがあります。いくつかの物語から分かることを関連づけて読むと、人物がどのような人物か、人物と人物の関係、物語の世界の様子などをより詳しく想像しながら読むことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝記に取り上げられている出来事から、人物の生き方を考える。 <p>【伝記を読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ある人物の生き方や一生などについて、事実をもとに書かれた文章を伝記といいます。 ●伝記には、作者が感動を持って捉えたその人物の生き方が描かれています。伝記を読むときには、取り上げられた出来事が、その人物の考えや生き方をどのように表しているかを考えながら読みましょう。また、その人物の決断や行動に対して、自分だったらそのときどうするかを考えながら読むと、人物の考えや生き方について、より深く考えることができます。 <ul style="list-style-type: none"> ●関連する本を読み、物語を深く味わう。 <p>【関連づけて読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●複数の本を関連づけて読むことで、それぞれの本をより深く味わうことができます。関連づけて読むときには、共通するところや異なるところを考えながら読みましょう。それぞれの本に描かれた「時」、「場所」、「人物」を比べたり、本を読んで感じたことを比べたりして、共通するところがないか考えてみるとよいでしょう。それぞれの本から印象に残った文章や言葉を書き出したり、短い言葉で表したりすると、その本の特徴やよさが分かりやすくなります。 	<p>碑 〈読書カードを作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本の中から目的に合った文や語句を見つける。 	<p>小さな労働者 〈本の広告カードを作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本を読み、その魅力について自分の考えをまとめる。 	<p>落語の秘密 〈ビブリアバトルをしよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読んだ本を紹介し合い、知識を広げ、自分の考えを深める。 <p>何のために「働く」のか 〈読書生活を振り返ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読んだ本を振り返り、これからの読書生活への展望を持つ。
情報活用	<ul style="list-style-type: none"> ●だいたいなところを探しながら読む。 <p>【だいたいなところを探しながら読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●知りたいことを本で調べるときなどは、次のようなところを探しながら読みましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・知りたいことに関係のある言葉 ・詳しく書いてあるところ <p>(ほか、「図書館へ行こう」など)</p>	<p>(「図書館へ行こう」など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな本や資料を、目的を意識して読む。 <p>【目的を意識して読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本や資料などからは、そこに書かれた内容だけでなく、筆者の説明のくふうや資料の使い方など、いろいろな情報を読み取ることができます。目的に応じて、どのようなことを読み取るのかを意識することが大切です。 <ul style="list-style-type: none"> ●複数の資料を読んで、情報を活用する。 <p>【複数の情報を活用する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ある課題について調べたり考えたりするときには、さまざまな資料や本を広く読み情報を収集します。そうして集めた情報は、目的に応じて活用することが大切です。情報を活用する際には、観点に沿って整理したり、一つの情報に関係づけながらほかの情報を補ったりするとよいでしょう。 <p>(ほか、「図書館へ行こう」など)</p>	<p>集まって住む 〈本紹介のポスターを作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的に合った本を探し、必要な情報を読み取ってまとめる。 <p>ニュースの見方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報への接し方と情報の用い方を身につける。 <p>【情報を見極める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報は発信者によって編集されたものであり、映像や写真も事実の一部を切り取ったものであることを意識する。 ●発信者が専門家か、公平な立場にあるかを考える。 ●複数の情報源に当たって、信頼できる情報かを確認する。異なる見方や考え方ができないかにも注意する。 	<p>歴史の物差し——水月湖の年縞 〈ミニ読書会を開こう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●複数の情報源から情報を得て、比べながら自分の考えをまとめる。 <p>「正しい」言葉は信じられるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事実の述べ方による、読み手に与える印象の違いについて考える。 <p>【事実と言葉の関係を意識する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一つの事実を、さまざまな言語表現によって言い表すことができる。 ●文の順序や言葉の選び方によって、読み手に与える印象が異なってくる。 	<p>いつものように新聞が届いた——メディアと東日本大震災</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報の意義とメディアの役割について考えを深める。 <p>【情報をより深く捉える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●伝わってくる情報の背後にある、発信者の意図や願い、行動を、想像したり考えたりする。 ●メディアの種類や発信者の立場によって、伝える情報の選択や、情報の伝え方・伝わり方に違いが出ることを意識する。